

科目名	看護学概論	時期	1年次 前期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	看護を実践するために必要な、健康、看護の概念、理論、看護の役割を学ぶ。		
目標	1 看護の概念を学び、看護の本質と役割を理解する 2 看護の対象と健康の概念について理解する 3 看護における倫理について理解する 4 看護提供のしくみと看護活動領域を理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 医学書院 看護者の基本的責務 定義・概念／基本法／倫理 日本看護協会出版会		
技術経路録 演習項目			
評価	筆記試験		

授 業 計 画

回数	項目	内容	方法
1	看護とは	1 看護の本質 2 看護の役割と機能 3 看護の継続性と情報交換 4 看護技術とは	講義及び演習
2	看護の対象の理解	1 人間のこころとからだ 2 人間の暮らし	
3	人間の健康状態と生活	1 健康のとらえ方 2 国民の健康状態 3 国民のライフサイクル	
4	医学概論	1 医学の歴史 2 現代の医療	
5	看護の提供者	1 職業としての看護 2 看護職の資格と養成にかかわる制度 3 看護職者の就業状況、継続教育とキャリア開発 4 看護職の養成制度の課題	
6	看護における倫理	1 現代社会と倫理 2 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 ・患者の権利とインフォームドコンセント ・ハンセン氏病・B型肝炎 等 3 看護実践における倫理問題への取り組み	
7	看護の提供の仕組み	1 サービスとしての看護 2 看護サービスの提供の場 3 看護をめぐる制度と政策 4 看護サービスの管理 5 医療安全と医療の質保証	
8	看護の質の保証	1 看護実践の要素 2 看護研究の実践	
9～14	看護理論と理論家	1 看護理論とは何か 2 看護理論の分類 3 看護理論の変遷 4 看護理論が看護実践と研究に果たす役割 5 看護理論家 ・ F. ナイチンゲール ・ V. ハンダーソン 他	
15	終了試験		

科目名	看護過程	時期	1年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	看護過程の基盤となる理論と看護過程のプロセスを踏まえた展開方法を学ぶ。また、看護実践に必要な看護記録について、その法的根拠と看護記録の基礎を学ぶ。		
目標	対象の健康問題を解決するための看護過程について基本的知識・技術を修得する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ハンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント第3版 ニューヴェルヒロカワ 看護過程に沿った対症看護第5版 病態生理と看護のポイント 高木永子 学研		
技術経路録 演習項目			
評価	筆記試験、課題レポート、出席状況等から総合的に判断する		
授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1~2	看護過程とは	1 看護過程の意義 ・5つの構成要素 2 看護過程展開の基盤となる考え方 1) 問題解決過程 2) クリティカルシンキング 3) リフレクション	講義及び演習
3~12	看護過程の各段階と展開	3 看護過程の実際 1) アセスメント ・情報収集とアセスメントの進め方 ・ゴードンの機能的健康パターンの意味と分析の視点 2) 全体像の把握 3) 看護問題の明確化 4) 看護計画 ・NANDA-NOC-NIC リンケージ 5) 実施・評価	
13~14	看護記録	4 看護記録 1) 看護記録とは ・看護記録の法的位置づけ ・看護記録の目的 ・叙史的経過記録 ・SOAP方式 2) 記録の保管・管理 ・記録(個人情報)の管理	
15	終了試験		

科目名	共通基本技術	時期	1年次 前期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	看護技術の特徴やコミュニケーションの基本的な方法、医療における安全性、学習支援について、その意義を理解し、基本的な知識と技術を学ぶ。		
目標	1 人間関係成立のためのコミュニケーションの基本的な方法を理解する 2 医療における安全確保・安楽確保の意義と基本的な援助技術を修得する 3 学習支援の意義と方法を理解する		
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を实践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②, 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③, 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院		
技術経路録 演習項目	レベルⅠ スタンダードプリコーションに基づく手洗い、必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の選択・着脱、 インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告、患者の誤認防止実施、体温調整の援助、使用した器具の 感染防止の取り扱い、感染性廃棄物の取り扱い、安楽な体位の調整、安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア		
評価	筆記試験、演習、出席状況などから総合的に判断する 技術試験: スタンダードプリコーションに基づく手洗い、必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の選択・着脱、		
授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方 法
1~3	コミュニケーション	1 コミュニケーションの意義と目的・構成要素・成立過程 2 関係構築に向けた基本技術と効果的な技術 3 コミュニケーション障害がある人への対応	講義及び演習
4~10	安全確保の技術	1 安全確保の基礎知識 2 転倒・転落防止、患者誤認防止 3 感染防止 1) 感染防止の基礎知識 2) 標準予防策(スタンダードプリコーション) 3) 感染経路別予防策 4) 医療感染性廃棄物の取り扱い	
11~13	苦痛の緩和・安楽確保の技術	1 体位の保持(ポジショニング) 2 褥瘡 3 身体ケアを通じてもたらされる安楽 ・リラクゼーション法 ・熱布バックケア	
14	学習支援	1 看護における学習支援とは 2 学習支援の基本となる考え方と行われる場 3 健康状態の変化に伴う学習支援とその対象 ・個人 ・家族 ・集団	
15	終了試験		

科目名	ヘルスアセスメント	時期	1年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	対象の健康状態を客観的かつ正確に把握するために、身体の情報を得てアセスメントする基本的な知識と技術を学ぶ		
目標	1 身体情報を収集する意義を理解し、その方法を修得する 2 収集した身体情報をアセスメントする意義を理解し、その方法を修得する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②, 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント アドバンス, インターメディカ		
技術経路録 演習項目	レベル I バイタルサインの測定、身体計測、フィジカルアセスメント		
評価	筆記試験、演習、出席状況などから総合的に判断する 技術試験:バイタルサイン測定		
授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1～3	ヘルスアセスメントとは	1 ヘルスアセスメントがもつ意味 2 ヘルスアセスメントにおける観察 3 ヘルスアセスメントにおける重要な視点	講義及び演習
4	フィジカルアセスメント	1 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 2 フィジカルアセスメントに必要な技術 問診・視診・触診・聴診・打診 3 全身状態・全体印象の把握	
5～8	バイタルサイン	1 バイタルサインの観察とアセスメント 1) バイタルサインとは 2) 測定方法とアセスメント ・意識レベル・体温・呼吸・脈拍・血圧・SPO2モニター 3) バイタルサインの記録・報告	SPO ₂ の測定
8～14	系統的フィジカルアセスメント	1 ケアにつなげるフィジカルアセスメント 2 系統別(呼吸器系、循環器系、腹部(消化器系)、筋骨格系)のフィジカルアセスメントの実際 1) 各フィジカルアセスメントの目的 2) 各フィジカルアセスメントに必要な基礎知識 3) 各フィジカルアセスメントの方法 3 心理・社会状態のアセスメント	
15	終了試験		

科目名	臨床判断	時期	2年次 後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(15時間) 8回
科目の概要	臨床場面における状況を適切に判断し、対象の変化に応じた看護が実践する基礎的な考え方を学ぶ。		
目標	看護実践の場で行われている流動的かつ柔軟な判断・対処の実際を理解し、その基礎的な方法を理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト			
技術経路録 演習項目			
評価	筆記試験 課題レポート 演習・出席状況から総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1～3	臨床判断とは	1 臨床判断とは 2 臨床判断のプロセス (Tanner'sの臨床判断モデルを用いて) 1) 気づく 2) 解釈する 3) 反応する 4) 省察する	講義及び 演習
4～7	事例展開	3 臨床判断に必要な思考の特徴 1) 批判的思考と直感的思考 2) 知識の体系化 3) チャンク化とスキーマ帰納 1 コンセプトベースドラーニング	
8	終了試験		

科目名	生活の援助技術Ⅰ	時期	年次 前期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	環境の調整と活動の意義を理解し、安全・安楽・自立の視点で対象の健康を促進するための、基本的技術を学ぶ。		
目標	対象の生活を整えるための環境および活動と休息の援助技術を修得する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 任 和子 医学書院		
技術経歴録 演習項目	レベルⅠ 快適な療養環境の整備、臥床患者のリネン交換、車椅子での移送、歩行・移動介助、移乗介助、体位変換・保持、自動・他動運動の援助、ストレッチャー移送 レベルⅡ 安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)		
評価	筆記試験、演習、課題レポート、出席など総合的に評価する		技術試験: シーツ交換
授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1~9	環境の調整	1 療養生活の環境 2 環境調整の意義 3 病室の環境のアセスメント 1) 病室・病床の選択 2) 温度・湿度、光と音 3) 色彩、空気の清浄性など 4) 人的環境 4 療養環境の調整と整備 1) ベッド周囲の環境整備 2) ベッドメイキング 3) リネン交換	講義及び演習 技術試験
	ボディメカニクス	1 看護におけるボディメカニクスの必要性 2 ボディメカニクスの実践	
10~13	活動と運動	1 基本的活動の基礎知識 2 活動と運動のアセスメント 3 活動と運動を促す援助 1) 体位変換 2) 歩行 3) 移乗・移送	
14	睡眠と休息	1 睡眠と休息の基礎知識 2 睡眠と休息のアセスメント 3 睡眠と休息を促す援助	
15	終了試験		

科目名	生活の援助技術Ⅱ	時期	1年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	食生活と排泄行動を理解し、安全・安楽・自立の視点で対象の健康を促進するために必要な基礎的技術を学ぶ		
目標	1 食事の意義を理解し、基礎的な食事摂取への援助技術を修得する。 2 排泄の意義を理解し、基礎的な排泄の介助と排泄促進への援助技術を修得する。		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 任 和子 医学書院		
技術経路録 演習項目	レベルⅠ 食事介助(嚥下障害患者除く)、排泄援助技術(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)、膀胱留置カテーテルの管理、浣腸 レベルⅡ 導尿または膀胱留置カテーテルの挿入		
評価	筆記試験 技術演習 課題レポート 演習・出席状況から総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方法
1～5	食事と栄養	1 食事と栄養の意義 2 栄養状態および摂取能力、食欲や食に対する認識のアセスメント 1) 栄養状態 2) 水分・電解質バランス 3) 食欲 4) 摂食・嚥下能力 5) 摂食行動 6) 食生活変更の必要性、患者の認識・行動のアセスメント 3 医療施設で提供される食事の種類と形態 4 食事摂取の介助(誤嚥予防含む) 5 摂食・嚥下訓練 6 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管・経腸栄養法 2) 経静脈栄養法	講義及び演習
6～14	排泄	1 自然排尿および自然排便の基礎知識 1) 排泄の意義 2) 排泄器官の機能と排泄のメカニズム 3) アセスメント 2 自然排尿および自然排便の介助 1) トイレにおける排泄介助 2) 床上排泄援助 3) おむつによる排泄援助 3 導尿 1) 一時的導尿 2) 持続的導尿 4 排便を促す援助 1) 排便を促す援助の基礎知識 2) 浣腸(グリセリン浣腸)	
15	終了試験		

科目名	生活の援助技術Ⅲ	時期	1年次 前期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	清潔・衣生活を整える意義を理解し、安全・安楽・自立の視点で対象の健康を促進するために必要な基本的技術を学ぶ。		
目標	1 対象の生活を整えるための清潔の援助技術を修得する 2 対象の生活を整えるための衣生活の援助技術を修得する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 任和子 医学書院		
技術経録 演習項目	レベルⅠ 足浴・手浴、整容、点滴・ドレーンなどを留置していない患者の寝衣交換、入浴・シャワー浴の介助、陰部の保青、清拭、洗髪、口腔ケア		
評価	筆記試験、課題レポート、出席状況		
授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方 法
1～10	清潔	1 身体の清潔の意義 2 清潔援助の基礎知識 1) 皮膚粘膜の構造と機能 2) 清潔援助の効果 3 清潔の援助方法と留意点 1) 入浴・シャワー浴 2) 清拭 3) 陰部洗浄 4) 洗髪 5) 部分浴(手浴・足浴) 6) 口腔ケア 7) 整容(洗面・爪切り・髭剃り)	講義及び 演習
11～12	衣生活	1 衣服を用いることの意義 2 衣生活援助の基礎知識 3 対象の状態に応じた衣服の選択 4 寝衣交換の援助方法と留意点	
13～14	対象の状態に応じた援助	1 清潔・衣服に関するアセスメント 2 対象の状態に応じた援助方法の選択と留意点 3 援助の実際と評価	
15	終了試験		

科目名	診療の補助技術 I		時期	1 年次 後期
担当者	看護師として 5 年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)	1 単位(30 時間)	
		回数	15回	
科目の概要	健康障害を持つ対象に実施される治療や処置を理解し、対象に必要な検査と与薬の看護技術を学ぶ。			
目標	1 検査や治療・処置を受ける対象の苦痛や不安を軽減する方法を修得する 2 検査や治療・処置の効果が最大限に達成されるよう支援する援助方法を修得する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院			
技術経験録 演習項目	レベル I 経皮・外用薬の投与、検体(尿、血液等)の取り扱い、検査の介助ができる、 針刺し事故の防止・事故後の対応 レベル II 経口薬の投与、坐薬の投与、皮下注射、筋肉内注射、静脈路確保・点滴静脈内注射、 点滴静脈内注射の管理、静脈血採血			
評価	筆記試験、演習、出席、課題レポートなどを総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内容		方法
1~14	生体機能のモニタリング	1 症状・生体機能管理技術の基礎知識 2 臨床検査の流れと看護師の役割 3 検体検査 1)血液検査 2)尿検査 3)便検査 4)喀痰検査 4 診察・検査・処置における技術 1)X線撮影 2)コンピューター断層撮影 3)磁気共鳴映像 4)内視鏡検査 5)超音波検査 6)肺機能検査 7)核医学検査 8)穿刺 5 検査値の読み方		講義及び演習
	与薬	1 与薬の基礎知識 2 経口方法 1)内服 2)口腔内与薬法 3 注射法 1)薬液の吸い上げ 2)注射の実施方法 ①注射の準備 ②皮下注射 ③皮内注射 ④筋肉内注射 ⑤静脈内注射 ⑥点滴静脈内注射 4 その他の与薬法 1)経皮的与薬 2)直腸内与薬 3)点眼 4)点鼻 5)吸入		
15	終了試験	※講義順序、詳細な授業計画は授業開始時に配布		

科目名	診療の補助技術Ⅱ	時期	1年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	診療の補助行為に関わる援助方法の基本について学ぶ。 検査及び治療、創傷管理等が必要な対象者に対して、安全・安楽な療養生活を支援するための援助方法を学ぶ。		
目標	1 身体症状に応じた、基本的な看護援助技術や対処方法を修得する 2 医療機器・器具の原理を理解し、安全に取り扱うための方法を修得する 3 援助や検査時の看護の役割について理解する		
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 基礎・臨床看護技術 医学書院		
技術経路録 演習項目	レベルⅠ 酸素吸入療法の実施、ネブライザーを用いた気道内加湿、体位ドレナージ、無菌操作 レベルⅡ 口腔内・鼻腔内吸引、褥瘡予防ケア、創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)		
評価	筆記試験、演習、出席状況、課題レポートなどを総合的に評価する		
授業計画			
回数	項目	内容	方法
1～4	感染防止の技術	1 感染経路別予防策 2 洗浄・消毒・滅菌 3 無菌操作 4 医療施設における感染管理	講義及び演習
5～7	創傷管理技術	1 創傷管理の基礎知識 2 創傷処置 3 包帯法 4 褥瘡予防ケア 5 褥瘡ケア	
8～14	呼吸を整える技術	1 酸素療法 中央配管、酸素ボンベ 2 排痰ケア 体位ドレナージ ネブライザーによる気道内加湿 3 口腔・鼻腔内吸引、気管内吸引 4 胸腔ドレナージ 5 吸入 6 人工呼吸療法 7 体温管理の技術 8 末梢循環促進ケア	ハフティング
15	終了試験		

科目名	臨床看護総論	時期	2年次 前期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	基礎的知識と技術を統合し、ライフサイクル、健康状態、症状、治療を含めた看護の対象者の状況の理解を深め、実際の看護実践につながる思考と援助内容・方法を学ぶ		
目標	1 健康状態の経過の特徴とそれに基づく看護を理解する。 2 主要症状を示す対象への看護を理解する。 3 治療を受ける対象の看護を理解する。		
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[4] 臨床看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術II 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床看護外科総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院		
技術経歴録 演習項目	レベル I 放射線の被曝防止策の実施 レベル II 薬剤などの管理(毒薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍を含む)、輸血の管理、人体のリスクの大きい薬剤の曝露予防策の実施		
評価	筆記試験 課題レポート 演習・出席状況などから総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方 法
1~4	ライフサイクル・健康状態の経過に基づく看護	1 各期の特徴及び各期にある患者のニーズと看護援助、関連する理論 1)急性期における看護 2)慢性期における看護 3)リハビリテーション期における看護 4)終末期における看護 死後の処置・グリーフケア	講義及び演習
5~7	主要症状を示す対象者への看護	1 呼吸に関連する症状を示す患者の看護呼吸困難 2 循環に関連する症状を示す患者の看護 ・浮腫 3 安楽に関連する症状を示す患者の看護 ・疼痛	
8	輸液療法を受ける患者への看護	1 輸液療法の目的と特徴 2 輸液療法(中心静脈栄養法を含む)を受ける患者の看護援助	
9~10	化学療法を受ける患者への看護	1 化学療法の目的と特徴 2 化学療法を受ける患者・家族への看護援助 ・治療前・治療中・治療後の支援 3 抗がん薬曝露の防止	
11~12	放射線療法を受ける患者への看護	1 放射線療法の目的と特徴 2 放射線療法を受ける患者・家族への看護援助 ・治療前・治療中・治療後の支援 3 放射線曝露の防止	
13~14	輸血管理	1 輸血の適応 2 血液製剤の種類と取り扱い上の注意点 3 輸血管理の実施と患者の看護援助 ・治療前・治療中・治療後の支援 ・副作用・合併症	
15	終了試験		

科目名	臨床看護の実践 I	時期	2 年次 前期
担当者	看護師として 5 年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1 単位(30 時間) 15 回
科目の概要	これまでに学んだ知識と技術を統合し、対象の状況に合わせた安全・安楽・自立／自律に留意した看護実践をするための思考と援助方法を学ぶ。また、対象の急変場面において必要となる救命処置の基本的な考え方と技術を学ぶ。さらに、現代医療において欠かせないモニタリングをはじめとする医療機器の基礎的な管理方法について、呼吸・循環等医学全般に対する幅広い理解をもとにした実践の方法を学ぶ。		
目 標	1 その場の患者の状況に応じて、既習した看護技術を複数適用する援助技術を修得する 2 救急状況での看護の役割を理解し、一次救命の技術を修得できる 3 医療機器を使用する患者の看護を理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
技術経路録 演習項目	レベル I 点滴ドレーン等を留置している患者の寝衣交換、緊急時の応援要請、一次救命処置(BLS)、止血法の実施、 レベル II 気管内吸引、医療機器(輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、人工呼吸器等)の操作・管理		
評 価	筆記試験、技術試験、演習、出席、課題レポートなどを総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項 目	内 容	方 法
1～5	多重課題をもつ患者の看護実践	事例によるシミュレーション ・ブリーフィング ・シミュレーション ・デブリーフィング	講義及び 演習
6～9	救命救急処置が必要な患者の看護実践	1 救命救急処置の基礎知識 1) 救急対応の考え方 2) 救急・急変時における初期対応 3) トリアージ 2 心肺蘇生法 1) 心肺蘇生法の基礎知識 2) 一次救命処置の実際 3) 二次救命処置について 3 止血法 4 急変時の対応 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際	
10～14	医療機器を使用する患者の看護実践	1 輸液ポンプ・シリンジポンプ 2 心電図モニター 3 人工呼吸器 4 除細動器	
15	修了試験		

科目名	地域・在宅看護概論	時期	2年次 前期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	地域で生活しながら在宅看護を必要とする人とその家族の特徴を理解し、療養生活を支える保健・医療・福祉制度と社会資源について学ぶ。 在宅看護が必要とされる社会的な背景を踏まえ、在宅看護の概念と対象・活動の場・活動方法の特徴、および在宅看護の役割と課題を学ぶ。		
目標	1 在宅看護が必要とされる背景と在宅看護の概念について理解する 2 在宅看護の対象、活動の場、看護活動の特徴について理解する 3 在宅看護の展開に必要な法・制度・社会資源について理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 国民衛生の動向 厚生統計協会		
技術経歴録 演習項目			
評価	筆記試験、演習、出席状況、課題レポートなどを総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方 法
1～5	地域・在宅看護の概念	1 地域と生活 2 地域、生活と健康の関係性 ・新潟県の特徴と下越地方の特色 ・新潟県の地域医療構想から捉える生活と健康の関係性 3 地域・在宅看護の背景 4 地域・在宅看護の基盤 5 地域療養を支える在宅看護の役割・機能 6 地域・在宅看護を展開するための基本理念 7 地域・在宅看護における倫理	講義 演習 グループワーク
6～8	在宅療養者と家族の支援	1 地域・在宅看護の対象者 2 在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件 3 在宅療養の場における家族の捉え方 4 在宅療養者の家族への看護	
9～14	地域・在宅看護の動向と今後の発展	1 在宅看護の先駆的取り組み 2 これからの地域・在宅看護の発展に向けて 3 地域における患者サポートの役割 ・下越地方におけるときネットを活用のよるこれからの在宅医療の多職種連携 ・ACPIによるこれからの地域・在宅看護の在り方	
15	終了試験		

科目名	地域・在宅看護 I	時期	2 年次 前期
担当者	看護師として 5 年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1 単位(15 時間) 8 回
科目の概要	地域療養を支える制度と社会資源活用における看護師の役割を理解し、実践に結び付ける方法を学ぶ		
目 標	1 医療保険制度、介護保険制度の概要と仕組みを理解する 2 後期高齢者制度、生活保護制度の概要を理解する 3 障害者を支援する制度、難病法、子どもの在宅療養を支援する制度について理解する 4 在宅で活用できる権利擁護や成年後見制度について理解し、実践に生かす 5 高齢者の地域生活を支援する制度を理解する		
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 国民衛生の動向 厚生統計協会		
技術経歴録 演習項目			
評 価	筆記試験、演習、出席状況、課題レポートなどを総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項 目	内 容	方 法
1~4	地域療養を支える制度	1 社会資源の活用 2 医療保険制度 3 後期高齢者医療制度 4 介護保険制度 5 生活保護制度 6 障害者に関する法律 7 難病法 8 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 9 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源 10 高齢者施策	講義及び演習
5~7	地域包括システムと多様な生活の場における看護	1 地域アセスメント 2 地域包括ケアシステム 3 療養の場移行に伴う看護 4 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 5 在宅看護におけるケースマネジメント・ケアマネジメント	
8	終了試験		

科目名	地域・在宅看護Ⅱ	時期	2年次 前期・後期
担当者	訪問看護師	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	在宅看護を支える訪問看護ステーションの役割を学ぶ 在宅看護における看護過程の特徴を理解し、在宅における看護実践の展開方法を学ぶ		
目標	1 在宅看護を支える訪問看護ステーションの役割を理解する 2 在宅看護特有の看護過程の展開の基礎を理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 国民衛生の動向 厚生統計協会		
技術経路録 演習項目			
評価	筆記試験、演習、出席状況、グループワークの課題・プレゼンテーションなどを総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方 法
1～4	在宅療養を支える訪問看護	1 訪問看護の特徴 1)訪問看護の目的と制度と提供方法 2)訪問看護の実施形態 訪問看護 療養通所介護 等 2 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 1)開設基準や従事者等 2)サービス内容と利用料 3 訪問看護サービスの展開 4 訪問看護の記録	講義 演習 グループワーク
5～14	在宅療養者の事例展開	1 脳梗塞後遺症で高次機能障害のある療養者 2 認知症の高齢者 3 ALS 療養者 4 終末期がん療養者 5 事故による中途障害(脊髄損傷)の療養者 6 精神障害者 7 重度心身障害の小児	演習 グループによる事例検討 プレゼンテーション
15	終了試験		

科目名	地域・在宅看護Ⅲ	時期	2年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	認知症、小児、難病や終末期の療養者とその家族の介護状況に応じた様々な看護上の問題を学ぶ。 生活する場に訪問する看護師の姿勢について学び、信頼関係のあり方を学ぶ。 その人らしく日常生活を過ごせるように在宅での日常生活援助技術や教育的な関わりを学ぶ。		
目標	1 特徴的な疾病のある療養者とその家族の在宅看護の特徴と重要な視点を理解する 2 訪問看護に必要な準備とマナーについて理解する 3 対象の理解に必要な信頼関係の形成について理解する 4 在宅ターミナルケアの概要を知り、看護師の役割について理解する		
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を实践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 国民衛生の動向 厚生統計協会		
技術経歴録 演習項目			
評価	筆記試験、演習、出席状況、課題レポートなどを総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1・2	在宅の場での必要な看護技術と訪問に向けた接遇と面接技術	1 在宅での必要な看護技術の考え方 2 生活行為のアセスメントの視点 3 身近な物品の代用と工夫 4 マナー・信頼関係形成・コミュニケーション技術	講義または演習
3	在宅における指導技術	1 指導技術の基本 2 社会資源の活用に関する家族への指導の実際	
4	特徴的な疾病のある療養者とその家族のへの在宅看護・小児の在宅看護	1 難病疾患について 2 子どもを対象とする医療費助成 3 レスパイトケア 4 家族支援と制度 5 成長発達への支援	
5	認知症の在宅看護	1 認知症の事例 1) 認知症の理解 2) 認知症の自立度判断基準 3) 認知高齢者への支援対策と取り組み・社会資源	
6・7	ACP の理解と在宅ターミナルケア	1 在宅ターミナルケアとは 1) 療養者とその家族の心理過程 2) ACP を含む意思決定支援 3) グリーフケア 4) 看護師の役割	
8～11	在宅における安全と健康危機管理	1 在宅看護における危機管理 1) 在宅療養の場で起こり得る事故の予防と対応 2) 在宅医療におけるリスクの特徴 2 日常生活における安全管理 3 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理 4 事例をもとに在宅における安全と健康危機管理について考える	
12～14	これからの地域・在宅看護の動向	1 在宅における栄養管理 2 在宅における服薬管理 3 在宅における多職種連携	
15	終了試験		

科目名	地域・在宅看護Ⅳ	時期	2年次 後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	2単位(30時間) 15回
科目の概要	療養者および介護者・家族のセルフケア能力を生かし、その家庭の状況を考慮した療養生活を支援するための看護技術を学ぶ。また、医療処置を必要とする療養者に対して、安全なケアを提供するための方法と留意点を学び、起こりうるトラブルとその対処方法を理解することにより予防的なケアの重要性を学ぶ。		
目標	1 医療処置が必要となった療養者とその家族の気持ちを理解する 2 自宅での医療処置における安全へのサポートについて理解する 3 医療処置に対して起こる危険とその要因と対処方法(予防方法を含む)を理解する 4 自宅での医療処置を必要とする療養者とその家族への必要な指導内容・支援を理解する 5 健康危機管理(感染症・災害対策)における対応や、健康危機発生時に期待される看護職の役割を理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 国民衛生の動向 厚生統計協会		
技術経路録 演習項目	レベルⅠ 経管栄養法による流動食の注入、経鼻胃チューブの挿入、摘便		
評価	筆記試験、演習、出席状況などを総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項 目	内 容	方 法
1～3	訪問看護技術	1 生活ケアと医療的ケア ・目的と意義 ・観察・アセスメント・リスクマネジメント 2 家庭訪問・初回訪問 1) 訪問看護における看護職の役割 2) 在宅療養における看護過程の展開	講義及び演習
4～5	在宅療養生活を支える基本技術	1 コミュニケーション 2 環境整備 3 生活リハビリテーション 4 感染予防 5 ターミナルケア	
6～7	日常生活を支える看護技術	1 食生活 2 排泄 3 清潔 4 肢位の保持と移動 5 呼吸 6 睡眠	
8～10	療養を支える看護技術(医療ケア)	1 薬物療法, がん外来化学療法 2 排痰ケア, 気管カニューレ管理 3 在宅酸素療法(HOT) 4 在宅人工呼吸療法 5 排尿ケア 6 ストーマ管理 7 在宅経管栄養法 8 輸液管理 9 褥瘡管理 10 足病変のケア 11 インスリン自己注射 12 在宅CAPD管理 13 疼痛管理	
11	訪問看護師による健康危機・災害対策	1 在宅療養における健康危機・災害対策 2 地域包括ケアシステムにおける健康 危機・災害対策 3 訪問看護師による健康危機・災害対策	
12～14	事例で学ぶ在宅看護の技術	<グループによるロールプレイ> *事例を基に在宅療養を継続するために 必要な技術の検討を行う	
15	終了試験		

科目名	成人看護学概論	時期	1年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	成人を身体的・心理的・社会的・文化的側面から理解し、ライフサイクルにおける成人期の対象を理解し、成人期をとりまく健康課題と看護を实践するうえでの基礎を学ぶ。		
目標	1 成人期にある対象の特徴について理解する。 2 成人期にある対象の生活習慣やライフスタイルと健康問題との関連を理解する。 3 成人期にある対象の学習の特徴を理解し健康行動促進のための看護を理解する。 4 成人期にある対象の健康問題に有用な理論・概念を理解する。		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を实践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 生涯人間発達論 人間への深い理解と愛情を育むために 阿部祥子 医学書院		
技術経路録 演習項目			
評価	筆記試験・出席・課題レポート・グループワークなど総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方 法
1～5	成人と生活 生活と健康	1 大人になること、大人であること 2 各発達段階の特徴 青年期 壮年期 中年期 向老期 3 働いて生活を営むこと 1)生活を営むこと 2)仕事を持ち、働くこと 4 家族形態と機能 1)家族からとらえる大人 2)家族支援	講義及び演習
6～9	生活習慣に関連する健康課題 生活習慣の是正	1 成人の健康の状況 1)生活習慣病 2)職業性疾患・受診状況 3)メンタルヘルスと自殺者数 2 生活行動がもたらす健康問題とその予防 1 大人の健康行動のとらえかた 1)大人の学習 2)行動変容ステージモデル・自己効力感	
10	職業に関連する健康課題	1 就労状況・労働環境がもたらす健康問題 2 ヘルスプロモーションと看護 3 職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護	
11～14	ストレスに関連する健康問題	1 ストレスと健康問題 1)ストレスの対処方法 2)ストレス・マネジメントと健康生活	
15	終了試験		

科目名	成人看護学Ⅰ	時期	2年次 前期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	完全に治ることは望めない、もしくは望みにくい慢性の経過をたどる対象に、再発防止や身体機能の維持・改善を目指し生活を支援する看護の基礎を学ぶ。		
目標	1 慢性期にある成人期の対象とその家族の特徴、および看護を理解する 2 慢性期にある成人期の対象が病気とともにその人らしく生きていくことを支える看護を理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1]成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器 医学書院		
技術経路録 演習項目			
評価	筆記試験・課題レポート・グループワーク参加・出席状況などから総合的に評価する		
授業計画			
回数	項目	内容	方法
1～2	慢性疾患の特徴	1 慢性病患者の理解 1)慢性病患者の経験する無力感 2 慢性病との共存を支える看護の実践 1)エンパワメント 2)セルフケアとセルフマネジメント 3)セルフマネジメント支援の構成要素 ①知識と技術(内発的動機づけ) ②自己効力感	講義及び演習
3～6	1型2型糖尿病患者の病期に応じた看護	1 血糖調節機能障害の原因と程度 2 症状と観察 1) 血糖調節機能障害による症状の把握と援助 3 検査を受ける患者の看護 1) 糖負荷試験<OGTT> 2) 自己血糖測定を行う患者の援助 4 治療を受ける患者の看護 1) インスリン補充療法 2) 糖尿病治療内服薬による治療 3) 食事・運動療法	
7～10	慢性腎不全患者の病期に応じた看護	1 腎機能障害の原因と程度 2 症状と観察 1) 尿毒症症状 2) 不均瘻症候群 3 透析治療を受ける患者の看護 1) 血液透析 2) 腹膜透析 4 腎移植を受ける患者の看護 5 セルフマネジメントのための教育的関わり 1) 生活指導	
11～14	肝硬変患者の病期に応じた看護	1 肝機能障害の原因と程度 2 肝機能障害による症状の把握と援助 1) 肝性脳症 2) 食道静脈瘤 3) 浮腫・腹水 4) 倦怠感 5) 黄疸 6) 出血傾向 3 治療を受ける患者の看護 1)薬物療法 2)生活指導 3)食道静脈瘤硬化療法 4 セルフマネジメントのための教育的関わり 1) 生活指導	
15	終了試験		

科目名	成人看護学Ⅱ	時期	2年次 前期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	生命の危機状態(周手術期・救命救急)にある対象及びその家族に対して、生命の危機回避と QOL 向上にむけた看護を実践するための基礎を学ぶ。		
目標	1 生命の危機状態にある対象とその家族の特徴と看護を理解する 2 周手術期にある対象の特徴と創傷治癒を促進するための援助方法を理解する 3 周手術期にある対象の事例をとおして健康上の問題及び看護の方向性を考える		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3]循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器 医学書院 高齢者と成人の周手術期看護 1・2 医歯薬出版		
技術経路録 演習項目			
評価	筆記試験・出席・課題レポート・看護過程・グループワークなど総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方 法
1	急性期にある対象の特徴の理解	1 健康の急激な破綻 2 急性期にある対象の看護 1)危機にある対象の支援 2)危機理論 3 意思決定支援	講義
2～6	循環機能障害のある患者の看護	1虚血性心疾患のある患者への看護 1)虚血性心疾患の原因と程度 2)経皮的冠動脈形成術 3)冠動脈バイパス術 4)虚血性心疾患をもつ人の看護 2 心不全のある患者への看護 1)心不全の原因と程度 2)心不全の治療 3)心不全をもちながら生活する人の看護 3 不整脈のある患者への看護 1)不整脈の原因と程度 2)ペースメーカー植込み術 3)ペースメーカーを装着した患者への看護 4 弁膜症のある患者への看護 1)弁膜症の原因と程度 2)弁置換術を受ける患者の看護	講義 演習 12誘導心電図
7～10	周手術期看護 (胃切除術患者)	1 手術前の看護 1)手術前オリエンテーション 2)心理面・全身状態を整える 3)術後合併症を予防する為の術前看護 2 手術中の看護 1)麻酔導入時の看護 2)手術体位による影響と援助 3)安全管理 3 術後の看護 1)手術侵襲と生体反応 2)手術後の疼痛管理 3)創傷、ドレーン管理 4 術後合併症と予防 1)呼吸器合併症 2)血栓塞栓症 3)術後イレウス 4)術後せん妄 5)術後出血	講義
11～14	周手術期の事例展開 (看護過程)	5 消化管機能障害の原因と程度:胃がん 6 手術による身体機能の変化と日常生活機能への影響 1) 術後管理 2) 早期回復促進のための援助 3) 胃切除術後のための生活の援助	グループワーク
15	終了試験	1 事例展開「幽門側胃切除術を受ける患者」	

科目名	成人看護学Ⅲ	時期	2年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	逃れられない死に直面した対象及びその家族に対し、個人の持つ価値観や人生観を理解し、死にゆく人の尊厳を守り、苦痛や苦悶をできる限り緩和しその人らしく生を生き抜くための看護を実践する基礎を学ぶ。		
目標	1 終末期にある成人期の対象とその家族の特徴および看護を理解する 2 終末期にある対象の事例を通して、終末期看護について考える		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1]成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4]血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器 医学書院		
技術経路録 演習項目			
評価	筆記試験・出席・課題レポート・看護過程・グループワークなど総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項 目	内 容	方 法
1～2	がん患者・終末期にある患者と家族への看護	1 がん患者の治療と看護 2 症状マネジメントにおける看護技術 3 人間にとっての死 1) キュブラー・ロスの死の受容過程 2) 全人的苦痛(トータルペイン) 4 人生の最期のときを支える看護 1) 意思決定支援と看護師の役割	講義
3～6	血液悪性疾患患者の病期に応じた看護援助(白血病・悪性リンパ腫)	1 白血病・悪性リンパ腫とは 2 化学療法を受ける患者の看護 1) 化学療法の理解を促す看護 2) 抗癌薬投与時の観察と援助 3) 有害事象に対する症状マネジメント 4) 長期合併症のアセスメントと援助 5) 心身状態のアセスメント 3 造血幹細胞移植を受ける患者の看護 1) 造血幹細胞移植の理解を促す援助 2) ドナーの健康状態のアセスメントと援助 3) 移植片対宿主病<GVHD>の観察と援助 4) 移植病室入室中の患者の援助 5) 心身状態のアセスメント	講義
7～14	肺がん患者の病期に応じた看護援助 (看護過程)	1 肺がん患者の経過と看護 1) 症状に対する看護 2) 検査を受ける患者の看護 3) 手術を受ける患者の看護 4) 肺がん患者の看護 2 事例展開「肺がん患者の看護事例を用いて終末期を中心に看護過程の展開」	講義 グループワーク
15	終了試験		

科目名	成人看護学Ⅳ	時期	2年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	様々な健康レベルにある成人期の対象を看護するために必要な援助技術を学ぶ 対象者が主体的な療養行動を新たに獲得し、その人らしい生活を再建するための支援に必要な援助技術を学ぶ。 また、対象者が最期までその人らしく生を抜くことを支えるための援助技術を学ぶ。		
目標	1 心身の状況に応じた援助技術を修得する 2 様々な状況にある対象者が主体的な療養行動を獲得するために必要な看護技術を修得する 3 緩和ケアに必要な基本的看護技術を修得する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	写真でわかる臨床看護技術2 インターメディカ 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 第2版 医歯薬出版 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 第2版 医歯薬出版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院		
技術経路録 演習項目	レベルⅠ 簡易血糖測定、精神的安寧を保つためのケア レベルⅡ 食事指導、ストーマ管理、ドレーン類挿入部位の処置		
評価	筆記試験・出席・課題レポート・演習・グループワークなど総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方 法
1～5	手術を受ける対象の看護技術	1 術前の看護 2 術後の看護 1)手術後帰室時の看護 2)創傷処置 ①滅菌操作 ②ドレーンガーゼの交換 3ストーマケア 1)ストーマの分類 2)ストーマ管理の実際	講義及び演習
6	胸腔ドレーンを挿入している対象の看護	1 胸腔ドレーンの観察 2 呼吸状態の観察	
7～10	セルフマネジメントが必要な対象の看護技術	1 糖尿病患者の看護技術 1)糖尿病とは 2)血糖測定の指導 ①簡易血糖測定 ②インシュリン注射の指導 3)糖尿病管理 ①食事指導パンフレット作成	
11～14	緩和ケアが必要な対象の看護技術	1「成人看護学Ⅲ」の看護過程で計画した看護の実践 1) 身体的苦痛緩和の援助 2) 精神的苦痛緩和の援助 3) 援助的コミュニケーション 2 死後の処置	DVD 視聴
15	終了試験		

科目名	老年看護学概論		時期	1年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	ライフサイクルにおける老年期の特徴を捉え、高齢者の健康と生活を支える看護職者としての基本的な考えを学ぶ。生活者の視点を持ち、高齢者に関する保健・医療・福祉制度や倫理的問題と課題について学ぶ。			
目標	1 生活者として高齢者を総合的に捉え、老年看護の対象と役割を理解する 2 超高齢社会における保健・医療・福祉の動向と課題を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 山田律子 医学書院			
技術経歴録 演習項目				
評価	筆記試験、課題レポート、出席状況			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1~8	老年看護学の理論と概念 高齢者の特徴	1 老化のメカニズム ・生理的老化と病的老化 2 老年看護学の変遷 3 老年期の発達課題 ・エリクソンとハヴィガースト 4 老年看護における生活史 5 老年看護に活用できる理論 ・生涯発達理論 ・サクセスフルエイジング ・ストレングスモデル ・離別理論と活動加理論 ・SOC理論 ・コンフォート理論		講義及び演習 演習 高齢者 疑似体験
9~10	我が国の高齢化問題	1 世界と比較した我が国の高齢化の推移 2 高齢者の世帯数・就業と所得状況・有訴率・受療率・死因・事故の統計とその背景		
11~12	高齢者の保健医療福祉システムの変遷	1 老人福祉法 2 老人保健法 3 介護保険制度 4 後期高齢者医療制度 5 ゴールドプラン 6 オレンジプラン 7 地域における高齢者の健康維持と増進における活動		
13~14	高齢者の権利擁護	1 エイジズム 2 ノーマライゼーション 3 高齢者虐待の実態と高齢者虐待防止法 4 成年後見人制度 5 日常生活自立支援事業		
15	終了試験			

科目名	老年看護学Ⅰ	時期	2年次 前期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	高齢者に特有の症候と健康問題を理解し、生活者としての視点を持ち、生活機能を維持・向上するための看護を学ぶ。治療を受ける高齢者の看護とエンドオブライフについて学ぶ。		
目標	1 高齢者に特有の症候と看護を理解する 2 治療を受ける高齢者の看護について理解する 3 エンドオブライフケアについて理解する		
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 山田律子 医学書院		
技術習得記録 演習項目			
評価	筆記試験、課題レポート、出席状況		
授業計画			
回数	項目	内容	方法
1～10	高齢者の生活を支える看護	1 高齢者の生活機能と評価 1)ICF・CGA・FIM 3)目標志向型思考 2)障害高齢者の日常生活自立度判定基準 4)生活行動モデル 2 高齢者に特有な症候と看護 1)廃用症候群 7)前立腺肥大症 2)骨粗鬆症 8)老人性陰炎 3)脱水症 9)睡眠障害 4)摂食・嚥下障害 10)視聴覚障害 5)低栄養 11)皮膚障害 6)尿失禁・便秘・下痢 12)うつ病	講義及び演習
11～12	治療を受ける高齢者の看護	1 薬物療法を受ける高齢者の看護 1)加齢に伴う薬物動態の変化 2)高齢者特有の薬物有害事象 3)服薬アドヒアランス 4)服薬管理支援 2 手術療法を受ける高齢者の看護 1)高齢者の手術適応 2)高齢者に起こりやすい術後合併症と看護 ・呼吸器合併症 ・せん妄 3 リハビリテーションを受ける高齢者の看護 1)疾患から生活への視点への転換 2)退院に向けた支援	
13～14	高齢者のエンドオブライフケア	1 高齢者の死生観 2 意思決定支援 1)アドバンスケアプランニング ・アドバンスディレクティブ ・リビングウィル 3 高齢者の終末期看護	
15	終了試験		

科目名	老年看護学Ⅱ		時期	2年次 前期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	老年期に発症することの多い疾患の看護を理解し、健康逸脱から回復を促す看護について学ぶ。			
目標	1 認知症をもつ高齢者の看護を理解する 2 脳血管障害・神経系疾患をもつ高齢者の看護を理解する 3 運動器障害をもつ高齢者の看護を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 豊かな人間力 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 看護を実践する力 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 探求する力 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器 医学書院 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 山田律子 医学書院			
技術経験録 演習項目				
評価	筆記試験			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1~4	認知症をもつ高齢者の理解と看護	1 認知症の定義 2 認知症の症状 1)生理的物忘れと認知症の違い 2)中核症状 3)行動・心理症状(BPSD) 3 認知機能と生活機能の評価 1)MMSE・HDS-R 2)認知症高齢者の日常生活自立度判定基準 4 四大認知症の看護		講義及び演習
5~9	脳血管障害をもつ高齢者の理解と看護	1 脳梗塞・脳出血の看護 1)高次脳機能障害に対する看護 2)運動・嚥下・排泄障害に対する看護 3)言語障害に対するコミュニケーション方法 4)リハビリテーション看護		
	パーキンソン病をもつ高齢者の理解と看護	1 パーキンソン病の看護 1)ホーエン・ヤール重症度分類 2)症状と看護		
10~14	運動器障害をもつ高齢者の理解と看護	1 腰部脊柱管狭窄症の看護 2 圧迫骨折患者の看護 1)コルセットの目的と装着中の看護 3 変形性膝関節症の看護 1)CPMの目的と看護 4 人工股関節置換後の看護 5 大腿骨近位部骨折の手術前後の看護 6 リハビリテーション看護		
15	終了試験			

科目名	老年看護学Ⅲ	時期	2年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(15時間) 8回
科目の概要	高齢者の特徴と老年特有の健康障害を踏まえ、生活機能とストレングスに着目した看護過程の展開方法を学ぶ。高齢者のQOLを考え、対象とその家族の支援について考える能力を養う。		
目標	1 高齢者の特徴と老年特有の健康障害を踏まえ、生活機能とストレングスに着目した看護過程の展開方法を理解する 2 高齢者のQOLを考え、対象とその家族の支援について理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 山田律子 医学書院		
技術経歴録 演習項目			
評価	筆記試験、課題レポート、出席状況		
授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1～7	健康障害のある高齢者の看護過程の展開	<p>アルツハイマー型認知症をもつ対象が大腿骨頸部骨折を受傷し人工骨頭置換術を受けた事例</p> <p>1 高齢者の特徴を踏まえたアセスメントの視点</p> <p>1)加齢変化(身体的・精神的・社会的)及び疾患の日常生活への影響</p> <p>2)生活習慣・価値観・健康への認識</p> <p>3)生活史と発症課題</p> <p>4)疾患の経過</p> <p>5)治療・入院による影響</p> <p>6)認知機能・心理状態</p> <p>7)家族背景・サポート状況・社会資源</p> <p>2 アセスメントに基づいた看護計画</p> <p>1)生活機能・対象の望む生活のあり方</p> <p>2)加齢変化・生活習慣を考慮した援助</p> <p>3)強み・残存機能を活用した援助</p> <p>4)対象の個別性や自尊心に配慮した援助</p> <p>5)事故防止・二次障害の予防に向けた援助</p> <p>6)安全・安楽を考慮した援助</p> <p>7)家族への援助</p> <p>8)退院後の生活を見据えた援助</p>	講義及び演習
8	終了試験		

科目名	小児看護学概論	時期	1年次 後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	小児各期における子どもの成長・発達の特徴を理解し、子どもの最善の利益のために、子どもと家族の特徴と社会の変化を踏まえた小児看護の役割について学ぶ		
目標	1 小児看護の対象となる子どもの特徴と、看護の機能と役割を理解する 2 小児各期の特徴に適した基本的生活習慣と養護を理解する 3 子どもを取り巻く社会環境と動向、子どもの健康上の課題を理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児看護学各論 医学書院 国民衛生の動向 一般社団法人 厚生労働統計協会 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディアカ		
技術経路録 演習項目			
評価	筆記試験 課題レポート 授業態度などから総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方法
1~2	小児看護学の特徴と理念	1 小児看護学の目指すところ 2 小児と家族の諸統計 3 小児看護の変遷 4 小児看護における倫理	講義・演習
3	子どもの成長・発達	5 小児看護の課題 1 成長・発達とは 1) 一般的原則 2) 成長・発達に影響する因子 3) 成長・発達の評価	
4	新生児期の成長・発達	1 形態的特長 2 身体生理の特徴 3 各機能の発達	
5	幼児期の成長・発達	1 形態的特長 2 身体生理の特徴 3 各機能の発達	
6	学童期の成長・発達	1 形態的特長 2 身体生理の特徴 3 各機能の発達	
7	思春期・青年期の子ども	1 形態的特長 2 身体生理の特徴 3 各機能の発達	
7	子どもの栄養	1 形態的特長 2 身体生理の特徴 3 各機能の発達	
8~9	子どもの養育と看護	1 子どもにとっての栄養の意義 2 子どもと食育 3 発達段階別の子どもの栄養の特徴 1) 乳児期 2) 幼児期 3) 学童期・思春期 4) 思春期・青年期	演習:人工乳作成・離乳食体験
10	家族の特徴とアセスメント	1 乳幼児期の看護と生活指導 2 学童・思春期・青年期の看護と生活指導 3 子どもの遊びと発達 4 事故防止	
11	子どもを取り巻く社会	1 子どもにとっての家族とは	
12~13		1 児童福祉 2 医療費の支援 3 予防接種 4 学校保健 5 特別支援教育 6 臓器移植	
14	子どもの虐待と看護	1 子どもの虐待への対策の経緯と現状 2 子どもの虐待とは 3 リスク要因と発生予防・早期発見 4 子どもの虐待に特徴的にみられる状況 5 求められるケア	
15	終了試験	※講義順序、詳細な授業計画は授業開始時に配布	

科目名	小児看護学Ⅰ		時期	2年次 前期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	医療が提供される場面であっても、常に子どもの成長・発達を踏まえて看護が展開されることを理解し、治療及び検査・処置における子供と家族に対する看護を学ぶ。			
目標	1 病気や入院が子どもと家族に与える影響と看護を理解する 2 健康障害をもつ子どもに必要な治療環境及び検査・処置における援助を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ			
技術経路録 演習項目				
評価	筆記試験 演習 課題レポートなどから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1	病気・障害を持つ子どもと家族の看護	1 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2 子どもの健康問題と看護		講義及び演習
2	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	1 入院中の子どもと家族の看護 2 外来における子どもと家族の看護 3 在宅療養中の子どもと家族の看護 4 災害時の子どもと家族の看護		
3~4	子どもにおける疾病の経過と看護	1 慢性期にある子どもと家族の看護 2 急性期にある子どもと家族の看護 3 周手術期の子どもの看護 4 終末期の子どもと家族の看護		
5~8	検査・処置を受ける子どもの看護	1 子どもにとっての検査・処置体験 2 検査・処置各論 与薬・輸液管理・採血・採尿・腰椎穿刺・酸素療法・吸入		演習:プレパレーション(検査・処置における看護)
9~10	症状を示す子どもの看護	1 小児の主な症状の観察と看護 不機嫌・啼泣・痛み・呼吸困難・けいれん発熱・嘔吐		
11~14	小児の遊び	1子どもにとって遊びとは 2発達段階に合わせた遊び		演習:発達に合わせた遊びの提供
15	終了試験			
※講義順序、詳細な授業計画は授業開始時に配布				

科目名	小児看護学Ⅱ		時期	2年次 前期・後期
担当者	臨床看護師・看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	疾患や障害をもちながらも成長・発達段階にある子どもとその家族を理解し、疾患と症状、治療に伴う看護を学ぶ。			
目標	健康障害をもつ子どもとその親・家族への看護を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院			
技術経路録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 授業態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方 法
1～2	低出生体重児の看護	1 胎外生活への適応を支える看護 2 成長・発達を支える看護 3 家族への看護		講義及び演習
3	急性胃腸炎の子ども の看護	1 脱水の評価と看護 2 輸液と栄養補給 3 清潔ケア・感染予防		
4～5	ネフローゼ症候群の子ども の看護	1 急性期(欠乏期) 2 回復期(利尿期) 3 症状消失後 4 退院に向けて		
6	食物アレルギーの子ども の看護	1 アレルギー症状に対する看護 2 予防と日常生活における注意点(誤食防止)		
7～9	気管支喘息の子ども の看護	1 急性発作に対する看護 2 長期的管理に置く看護 1)自己管理の促進(喘息症状のコントロール) 2)アドヒアランス向上への支援		
10～11	川崎病の子ども の看護	1 急性期の看護 2 回復期の看護 3 家族への看護		
12～13	白血病の子ども の看護 障害のある子どもと家 族の看護	1 診断時の看護 2 治療を受ける看護 3 再燃・再発時の看護		
14	障害のある子どもと家 族の看護	1 障害の捉え方 2 障害のある子どもと家族の特徴 3 障害のある子どもと家族への社会的支援		
15	終了試験			

科目名	小児看護学Ⅲ	時期	2年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(15時間) 8回
科目の概要	小児の特徴を踏まえた看護過程の展開と、治療に伴う小児特有の看護技術を修得する。		
目標	1 子どもの治療に伴う看護の知識と技術を理解する 2 小児の特徴を踏まえた看護過程のプロセスを理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院		
技術経路録 演習項目	レベルⅠ 安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)		
評価	筆記試験		
授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方 法
1～3	子どものアセスメント	1アセスメントに必要な技術 1)コミュニケーション 2)バイタルサイン 3)身体計測	講義 演習:バイタルサイン・輸液管理・採尿・酸素療法・吸入・転落防止
4～7	白血病の子どもの看護	白血病の発症がわかった学童期の子どもの事例展開	演習:看護過程
8	終了試験	※講義順序、詳細な授業計画は授業開始時に配布	

科目名	母性看護学概論		時期	2 年次 前期
担当者	看護師として 5 年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)	1 単位(30 時間)	回数 15 回
科目の概要	対象者を身体的・心理的・社会的・文化的側面から理解するためには、ライフサイクルにおける妊娠・分娩・産褥期を中心とした母性の対象とその家族を理解するために学ぶ。また、母性をとりまく日本や諸外国の保健の動向と課題を理解するために学ぶ。			
目標	1 母性の概念と母性看護の意義および特性について理解する 2 母性に関する諸問題、各期における母性の特徴を理解し、母性の健康保持・増進に必要な看護を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院 国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会			
技術経験録 演習項目				
評価	筆記試験・平常点(グループワーク・レポート・出席状況など)を総合的に評価			
授業計画				
回数	項目	内容		方法
1~14	母性看護の概念	1 母性・父性、母性看護の概念 2 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 3 家族の発達・機能		講義
	母性看護と倫理	1 母性看護における法的倫理的責任・倫理的配慮		講義
	性の概念	1 性的健康の概念 2 セクシャリティ 3 ヒトの発生・性的分化のメカニズム		講義
	性と生殖の機能のメカニズム	1 性周期 2. 性行動・性反応 3. 受胎のメカニズム		講義
	母子の健康生活と法律・制度	1 母子保健の統計指標 2 母子保健法 3 子育て支援施策 4 母体保護の関係法規 5 女性の就労の関係法規		講義及び演習
	女性のライフサイクル各期における看護	1 思春期女性の健康課題と看護 1) 第二性徴 2) 性意識・性行動の発達 3) 月経異常 4) 性感染症 2 成熟期女性の健康課題と看護 1) 家族計画 2) 不妊症・不育症 3) 性暴力・DV 3 更年期女性の健康課題と看護 1) 閉経 2) 更年期症状 4 老年期女性の健康課題と看護 1) 骨盤臓器脱 2) 老人性陰炎・外陰炎		講義
15	終了試験			

科目名	母性看護学Ⅰ		時期	2年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回	
科目の概要	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康な母子と家族に対して必要な看護を学ぶ。			
目標	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の対象とその家族に必要な看護を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス 平澤美恵子・村上睦子 インターメディカ			
技術経験録 演習項目				
評価	筆記試験・レポート・出席状況などから総合的に評価			
授業計画				
回数	項目	内容		方法
1～14	妊娠の生理と妊婦の看護 分娩の生理と産婦の看護 産褥の生理と褥婦の看護 新生児の生理と看護	1 妊婦の経過と胎児の発育 2 妊娠と不快症状 3 妊婦の心理 4 妊婦・胎児の発育と健康状態 5 妊婦の日常生活とセルフケア・保健相談 1 分娩経過と胎児の健康状態 2 産婦の基本的ニーズと看護 3 産痛の緩和 1 産褥期の生理的变化 1) 退行性変化 2) 進行性変化 2 褥婦の心理的变化 3 身体機能の回復及び進行性変化への看護 4 褥婦の日常生活援助とセルフケア 5 母乳育児への支援 6 家族関係再構築への援助 1 新生児の生理と機能 2 出生直後の新生児看護 3 新生児の健康状態のアセスメント		講義
15	修了試験			

科目名	母性看護学Ⅱ		時期	2年次 後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員 臨床助産師	単位 (時間)	1単位(30時間) 15回	
科目の概要	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期のハイリスクな母子、家族に対して必要な看護を学ぶ。			
目標	1 妊娠期・分娩期・産褥期の対象の異常に伴う看護について理解する 2 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の対象に必要な看護技術について理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス 平澤美恵子・村上睦子 インターメディカ			
技術経験録 演習項目				
評価	筆記試験・平常点(グループワーク・レポート・出席状況など)を総合的に評価			
授業計画				
回数	項目	内容		方法
1～3	妊娠の異常と看護	1 不育症、流産、早産 3 常位胎盤早期剥離 5 妊娠高血圧症候群 7 出生前診断 9 妊娠悪阻	2 感染症 4 前置胎盤 6 妊娠糖尿病 8 妊娠貧血 10 高年妊娠、若年妊娠	講義
4～9	分娩の異常と看護	1 前期破水 3 分娩時異常出血 5 陣痛異常(微弱陣痛・過強陣痛)	2 帝王切開術 4 胎児機能不全	講義
	産褥の異常と看護	1 肺塞栓 3 産褥熱 5 産後うつ 7 死産、障害をもつ新生児を出産した親への看護	2 子宮復古不全 4 乳腺炎 6 帝王切開術後	講義
10～14	母性看護技術	1 妊婦・産婦・褥婦の看護に関わる技術 2 新生児の看護に関わる技術 3 母性看護学実習での看護過程の考え方 4 災害時の妊産婦と家族への支援 5 NCPR		講義
15	終了試験			

科目名	母性看護学Ⅲ	時期	2年次 後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する 専任教員	単位(時間) 回数	1単位(15時間) 8回
科目の概要	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の母子に対する看護を理解し技術を学ぶ。		
目標	1 妊娠・分娩・産褥期・新生児期の対象に必要な看護技術を修得する 2 産褥期・新生児期における褥婦・新生児の看護過程の展開に必要な知識と技術を理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス 平澤美恵子・村上睦子 インターメディカ		
技術経験録 演習項目	レベルⅠ 新生児の沐浴・清拭、安全な療養環境の整備		
評価	演習・平常点(グループワーク・レポート・出席状況など)を総合的に評価		
授業計画			
回数	項目	内容	方法
1～8	母性看護に必要な 技術	1 妊娠期 1) 類似妊婦体験 2) 妊婦の健康診査 ・子宮底測定 ・腹囲測定 ・レオポルド触診法 ・児心音聴取 ・コミュニケーション 2 分娩期 1) 産痛緩和 3 産褥期 1) 褥婦の観察 ・子宮底測定 ・創部と悪露パッドの観察 2) 授乳指導 ・乳房のアセスメント ・ラッチオンとポジショニング 3) 健康と快適さを促すためのケア ・産褥体操 ・足浴 ・バックケア 4 新生児期 1) 新生児の観察 ・バイタルサイン測定・全身の観察 2) 清潔ケア ・沐浴 ・オムツ交換 3) 移送 ・抱き方と寝かせ方	演習
	母性看護学実習で の看護過程の展開	1 産褥期にある対象の看護過程 2 新生児期にある対象の看護過程	演習

科目名	精神看護学概論	時期	1年次 後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	精神看護の二側面の一つである精神保健を中心に、精神看護の意義と目的を理解するために、精神の健康の概念や心の機能と発達について学修する。さらに、精神保健医療福祉の変遷および障害をもつ人を支える法律について学修する。		
目標	1 精神保健の基本と、保持・増進に向けた活動について理解する 2 精神看護の対象の理解と支援のための概念について理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を实践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野II 精神看護の基礎 精神看護学①, 医学書院. 系統看護学講座 専門分野II 精神看護の展開 精神看護学②, 医学書院.		
技術経路録 演習項目			
評価	筆記試験、演習、出席状況、課題レポートなど総合的に評価する		
授業計画			
回数	項目	内容	方法
1~2	精神の健康の概念 地域における精神保健	1 精神の健康の定義 2 精神と情緒の発達 3 精神保健医療福祉の改革ビジョン 4 精神障害の一次予防・二次予防・三次予防 5 リハビリと精神医療	講義
3~4	心の機能と発達	1 精神力動(フロイト,S)と防衛機制 2 転移感情 3 偏見、差別、スティグマ	講義
5~7	危機(クライシス)	1 危機の概念・予防・対処 2 ストレスコーピング 1) 危機受容(フィンク,S,L、コーン,N) 2) 危機理論(アギュララ,D.C、キャプラン,G)	講義
8~10	精神保健医療福祉の変遷 と看護	1 諸外国における精神医療の変遷 2 日本における精神医療の変遷 3 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)の基本的な考え方 4 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)による入院の形態	講義
11	家族と精神の健康	1 家族とは (夫婦関係、親子関係、家族システム)	講義
12	暮らしの場と精神の健康	1 学校と精神の健康 (いじめ、不登校、ひきこもり、自殺) 2 職場・仕事と精神の健康 (ハラスメント、アディクション、自殺)	講義
13~14	精神の健康とマネジメント	1 リエゾン精神看護 2 感情リテラシーと看護師 3 災害時の精神保健医療活動	講義
15	終了試験(90分)		

科目名	精神看護学Ⅰ	時期	2年次 前期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	精神障害の中で入院患者の割合の多い代表的な疾患(統合失調症、気分障害など)の特徴と看護について学修する。また、患者-看護師関係構築のための治療的コミュニケーション技法の修得および自己洞察のための再構成について学修する。		
目標	1 精神の健康障害のある人の健康状態に応じた看護について理解する 2 主な精神疾患・障害の特徴と看護について理解する		
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①, 医学書院。 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②, 医学書院。		
技術経路録 演習項目			
評価	筆記試験、演習、出席状況、課題レポートなど総合的に評価する		

授 業 計 画

回数	項目	内容	方法
1～3	精神看護の対象の理解と支援のための概念	1 精神を病むということ 2 精神症状と状態像	講義
4～7	主な精神疾患・障害の特徴と看護	1 統合失調症 2 気分障害 3 神経定性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害 4 パーソナリティ障害 5 知的能力障害 6 発達障害 7 てんかん	講義
8～10	精神看護の対象理解の概念と支援の実際	1 オレム・アンダーウッド看護モデル:セルフケアへの援助 (食物、水分の摂取、呼吸、排泄、清潔と身だしなみ、活動と休息、対人関係、安全)	講義および 演習 演習:セルフケア援助
11～14	援助関係の構築	1 精神科コミュニケーション技法 2 H.E,パプロウ:人間関係論 (患者-看護師関係、プロセスレコードの活用)	講義および 演習 演習:コミュニケーション技法、プロセスレコード
15	終了試験		

科目名	精神看護学Ⅱ		時期	2年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、看護師		単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	精神に障害をもつ人の生きにくさを理解しながら、理論を用いて患者の自己決定能力やセルフケア能力向上を見据えた看護について学修する。精神疾患の治療および看護の実際について学修する。			
目標	精神疾患・障害がある人の人権と安全を守り、回復を支援する看護について理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①, 医学書院. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②, 医学書院.			
技術経路録 演習項目				
評価	筆記試験			
授業計画				
回数	項目	内容	方法	
1~2	回復を助けるためのかわり	1 回復の意味 (レジリエンス・リカバリ・ストレングス・エンパワメント) 2 入院治療の目的と意味 3 治療的環境(物理的・心理的・社会的)	講義	
3	精神科における多職種連携	1 多職種連携と看護の役割 (医師・歯科医師、保健師、精神保健福祉士作業療法士、精神保健福祉相談員、ピアサポーター、薬剤師、栄養士、臨床心理技術者)	講義	
4~5	精神科の治療と身体ケア	1 精神療法としての身体ケア 2 抗精神病薬の有害反応と看護 3 生命の危険を伴う有害反応と看護	講義	
6~8	精神科における身体ケアの実際	1 患者の回復段階に応じた身体ケア (急性期、回復期、慢性期) 2 日常から気をつけておきたい身体合併症 (メタボリックシンドローム、DM、るい瘦、肺炎、骨折、窒息、悪性新生物) 3 日常生活における身体ケア (足、皮膚、口腔、便秘、睡眠)	講義	
9~11	安全な治療環境の提供	1 患者の権利擁護(アドボカシー)と自己決定の尊重 2 入院患者の基本的な処遇 3 病棟環境の整備と行動制限 4 自殺、自殺企図、自傷行為、無断離院 5 攻撃的行動、暴力、暴力予防プログラム	講義	
12~14	精神疾患・障害がある患者の治療と看護	1 薬物療法 2 心理・社会的療法 (精神療法、認知行動療法、社会生活技能訓練 SST、作業療法) 3 修正型電気けいれん療法 4 社会復帰・社会参加への支援 (精神科リハビリテーションの概念、精神科デイケア・精神科ナイトケア、精神科訪問看護、ACT、家族会) 5 長期入院患者の退院支援 6 社会資源の活用とソーシャルサポート	講義	
15	終了試験			

科目名	精神看護学Ⅲ	時期	2年次 後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(15時間) 8回
科目の概要	慢性期にある統合失調症、気分障害の対象を事例にした看護過程を実際に展開し、アセスメントや援助計画を立案することにより、基礎的知識・技術を深める		
目標	1 精神科における代表的な疾患の看護過程に必要な知識と方法を理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①, 医学書院. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②, 医学書院. 全人的視点にもとづく精神看護過程第2版, 医歯薬出版株式会社		
技術経歴録 演習項目			
評価	筆記試験、演習、出席状況、課題レポートなど総合的に評価する		

授 業 計 画

回数	項目	内容	方法
1	精神看護における看護過程	1 精神科におけるヘルスプロモーション型看護過程について	講義
2~3	うつ病患者の看護過程の展開	1 うつ状態にある患者に対し、ゴードンの11の機能的健康パターンを活用して看護過程を展開する	演習:看護過程
4		発表	
5~6	統合失調症患者の看護過程の展開	1 統合失調症(慢性期)患者に対し、ゴードンの11の機能的健康パターンを活用して看護過程を展開する	演習:看護過程
7		発表	
8	終了試験		

科目名	看護研究	時期	3年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	看護実践の質を高め、科学的根拠に基づく看護実践を行うために、看護研究の基礎を学ぶ。また、自己の看護実践の振り返り(ケーススタディ)を通して、研究的視点と態度を学ぶ。		
目標	1 看護における研究の意義と方法がわかる 2 研究のプロセスとその進め方がわかる 3 研究の一連の過程をとおして、科学的思考と研究的態度をもつことができる		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社		
技術経歴録 演習項目			
評価	提出物の内容・提出状況、研究論文の内容・看護研究発表の実際等より総合的に評価する		
授業計画			
回数	項目	内容	方法
1~2	看護における研究の意義	1 研究とは何か 2 看護研究の意義 3 リサーチクエスション 4 文献検索 5 看護研究と倫理 6 研究デザイン	講義及び演習
3	事例研究の意義・目的	1 事例研究とは ・ ケーススタディとは 2 事例研究の進め方 3 事例研究と倫理的配慮	
4~5	事例研究の計画	1 研究のテーマの設定 2 研究計画書の作成 3 文献検索の方法	
6~10	事例研究の実施	1 研究計画書の検討 2 文献検索・文献検討 ・ 文献の引用方法 3 論文の作成 4 抄録の作成 5 口演・スライド作成の留意点	
11~13	研究発表準備	1 発表原稿作成 2 スライド作成 3 発表会の運営準備と役割 4 発表練習	
14~15	研究発表会	1 発表 2 質疑応答 3 発表会の運営	

科目名	看護管理と医療安全		時期	2年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	組織として看護を提供する際に必要な看護管理について、基盤となる知識と技術、マネジメント能力を学ぶ。また、安全な看護を提供するために必要な基本的知識と技術を学ぶ。			
目標	1 看護に必要なマネジメントを理解する 2 看護の動向と看護行政について理解し、看護の今後の課題を考えることができる 3 医療安全に向けた日本の対策と組織の安全管理の仕組みを理解する 4 事故発生のメカニズムと防止対策、事故分析の方法を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 医療安全 メディカ出版 医療安全ワークブック 川村治子 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院			
技術経路録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 演習内容 出席状況から総合的に判断する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1~2	看護とマネジメント 看護ケアのマネジメント	1 看護管理とは 看護におけるマネジメント 1 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2 患者の権利尊重、安全管理 3 多職種協働・連携・チーム医療 4 看護業務の実践		講義
3~5	看護職のキャリアマネジメント 看護サービスのマネジメント	1 キャリアとキャリア形成 2 看護職のキャリア形成 3 看護専門職としての成長 4 ストレスマネジメント 1 看護サービスのマネジメント 2 組織目的達成のマネジメント 3 看護サービス提供仕組みづくり 4 人材のマネジメント 5 施設・設備環境、物品、情報のマネジメント 6 組織におけるリスクマネジメント 7 サービスの評価		
6	マネジメントに必要な知識と技術	1 組織とマネジメント 2 リーダーシップとマネジメント 3 組織の調整		
7	看護を取り巻く諸制度	1 看護管理に関する法令 2 医療制度		
8~11	医療安全への取り組みと医療の質の評価 事故発生のメカニズム、リスクマネジメント	1 医療安全の重要性・その取り組み 2 医療事故等の定義・分類 3 医療事故の報告制度 4 医療の質の評価 1 事故発生のメカニズム 2 事故分析・事故対策 3 KYT の実際		演習
12~14	看護業務の安全を脅かすリスクと対策 看護学生の実習と安全 安全対策の実際	1 看護業務と事故発生要因 2 医療事故の種類と安全対策 3 看護職の業務上の危険と対策 1 実習における事故の法的責任と補償 2 実習中の事故予防および事故発生時の学生の対応 3 事例によるリスクアセスメント ・チューブ類事故防止 ・身体拘束 ・誤薬(名称類似等)		演習 身体拘束
15	修了試験			

科目名	災害看護と国際看護	時期	2年次 後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	災害急性期から慢性期の各期における対象への看護及び関係機関との連携等災害看護の基礎を学ぶ。 国際社会における看護の必要性を理解し、国内外における国際協力と看護活動を学ぶ。		
目標	1 災害が及ぼす影響を理解し、生活と自立を支える災害各期の看護を理解する 2 災害関係諸機関との連携の必要性を理解し、多職種と協働する際の看護の役割を理解する 3 世界において看護を必要とする人々の状況を知り、国際看護を理解する 4 世界の健康問題、諸外国の看護を理解し、看護の国際協力について考える		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	看護学テキストシリーズ Nice 災害看護 酒井明子・菊池志津子 南江堂出版 看護の統合と実践③ 国際看護学 田村やよひ メジカルフレンド社		
技術習得記録 演習項目			
評価	筆記試験、課題レポート		

授 業 計 画

回数	項目	内 容	方法
1	総論	附属病院の災害医療の対策と現状	講義及び演習
2～3	災害及び災害看護に関する基礎的知識と災害発生時の社会の対応や仕組み・個人の備え	1 災害の歴史 2 災害の定義 3 災害サイクル 4 災害の種類や特徴 5 災害に関する法や制度 6 情報伝達体制 7 災害関係機関の支援体制 8 災害ボランティア活動	
4	災害が人々の生命や生活に及ぼす影響	1 災害時の地域アセスメント 2 災害種類別疾患の特徴 3 災害時の心理	
5	災害時に看護が果たす役割と災害各期における看護活動	1 災害看護の基本姿勢 2 災害サイクル各期における看護活動 3 避難所・仮設住宅・復興住宅における看護 4 災害における社会資源の活用 5 地域住民との連携	
6～7	看護支援活動の実際	1 机上トリアージ 2 応急処置と搬送(止血法を含む)	
8～9	国際看護学の現状と課題	1 国際看護学 ・国際看護学の概念、目的・諸外国における保健・医療・福祉の健康問題 ・国際社会における日本の役割と看護 2 国際看護の支援対象者 ・国際看護活動の範囲・海外における活動・在日外国人への活動	
10	国際看護活動の推進機関	3 国際看護活動の推進 ・保健医療分野における国際機関・国としての国際協力活動 ・国内外のNGOによる国際協力活動	
11～12	対象の理解と国際看護活動	4 異文化理解と看護活動 ・文化を考慮した看護・国際看護活動に必要な能力	
13～14	国際看護活動の実際	5 国際看護活動の展開プロセス ・活動の実際	
15	修了試験		

科目名	臨床看護の実践Ⅱ	時期	3年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	既習の知識・技術・態度を統合し、看護チームの一員として事例の状況に応じた適切で安全な看護を提供する方法を学ぶ。		
目標	1 看護実践場面における医療安全と援助の優先順位、看護倫理について理解する 2 演習事例を通して、場面に応じた臨床判断と援助を適切に実施する		
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔1〕看護管理 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ナーシンググラフィカ 統合分野 医療安全 メディカ出版		
技術習得記録 演習項目			
評価	試験、レポート、演習等授業の参加状況から総合的に判断する		
授業計画			
回数	項目	内容	方法
1～2	チームで協働する看護実践	1 チーム医療における看護 ・ 多職種と協働する看護 2 チームで行う看護 ・ リーダーシップ、メンバーシップ ・ 情報共有 ・ 報告・連絡・相談	講義
3～4	看護倫理に基づく看護実践	1 看護倫理と看護実践 ・ 看護の平等性 ・ 組織の意思決定	講義
5～8	複数患者の事例展開	1 看護実践場面の状況判断 1) 情報収集・対象理解 2) 1日の業務の組み立て ・ 複数患者に対する援助計画立案 ・ 優先順位の決定 ・ チームでの連携	講義及び演習
9～14	多様な臨床場面に応じた看護実践	1 患者の状況変化への対応 1) 対象理解 2) 援助計画立案 3) 実施 ・ チームでの連携 2 突発的な状況での対応 1) 多重課題と優先順位 2) 安全・安楽・倫理的配慮 ・ チームでの連携	演習
15	終了試験		